

Commission3 (5th February 2009)

ワークショップの決議

総論

1. 2030年までに世界の人口の60%が都会化された地域に居住するということが予想されることから、ワークショップでは都市化がすべての国において、深刻な問題となっていることを確認しました
2. 結果として生ずるのは、多くの人口が集中することと不法な開発による大きなスラムです
3. ワークショップは、ローカル、地域、国家レベルを問わず、SDIを通じて配布される、適切な空間情報の利用により継続性ある開発が可能であることを確認しました
4. ヨーロッパにおいて、私たちはローカル、地域のレベルで、かなりの数のSDIの実例を見ることができました。これは、オープンな規格の採択とINSPIREのイニシアティブによる強い影響を通じて出来上がったものです
5. これらのSDIは、空間情報にアクセスしようとする意思決定者や市民へ、ますますすばらしい透明性を提供しています

経済の課題

6. 私たちは、経済的に挑戦するような時間に生きています、そして、この混乱は3~4年の時間枠で生じるだけかもしれません
7. 金融サービスと所有権の間には密接不可分の関連にあり、そして、これは現在の財政危機にかなりの影響をもたらしております
8. 金融と資産セクターの関係は、この危機の奈落から学ぶべき課題を特定するような見直しが必要と思われます。スウェーデンの90年代の経済危機において40年間に亘る土地情報サービスの開発と金融サービスの緊密な関係が、課題解決のために確実に学ぶことができるでしょう

INSPIRE

9. ワークショップは、INSPIREプログラムを詳述し、INSPIREによって定められている情報モデルを採用した多くのプロジェクトに焦点をあてました
10. 特に金融的な挑戦をする期間には、空間情報の提供者の広範囲、かつ広いレベルを通じて挑戦は採用され、理解されるものと信じています

査定

11. ドイツは自動査定手法を作り上げて、現在はこの工程の中にGISを統合しています

12. 大部分のドイツの州は、民間部門からの情報サービスを補う形で、不動産市場データを提供しています。政府の情報サービスと民間部門による付加価値サービスの間には、明確な境界線がはっきりと定められているわけではありません

都市情報の取得

13. ワークショップは、市民ベースのセンサにより入手可能な新しい都市域の情報源を開拓しました - 仮に『都市域センシング』と呼びます。これらの技術は、価値ある最新の情報源ですが、しかし、プライバシーに関する深刻な問題が上がってきていることも認識しています
14. マイクロソフト、ヤフーと Google などが『earth viewer(地球観察者)』をサポートすることで、三次元の都市域情報の取得が進み、エンドユーザはその3次元のインタフェイスを見たいと期待しています。しかしながら、この情報の精度には限界があり、エンジニアリングの分野における応用には相応しくありません。すなわち±10～30cmsの誤差があるということです。しかし、写真測量とLiDARを結合する新しい技術は、3次元の都市域環境情報を自動的に取得する可能性を示しています
15. 都市情報のメンテナンスは、都市域で進んでいる変化に対応して、高度なレベルで挑戦を進めています(ある都市では、10年で二倍のサイズになります)

都市域情報の統合(情報の相互操作性)

16. INSPIREの実装は、実装のルールを義務化すると共に標準的なデータモデルを提供します。一旦データモデルが採用されるならば、これはデータセットの照合と統合を単純化することに役立ちます。
17. いくつかの実例は、地方自治体の投資家のデータセットを通じて、標準的なデータモデル(スキーマ)の定義と実装を示してくれました。しかし、プロセスには克服されなくてはならない、セマンティックという面で大きな違いがあります;ウェブ3.0(セマンティックウェブ)をサポートするために開発されているツールは、このデータの相互操作性をサポートする際の基礎となることでしょう

都市域情報へのアクセス

18. ワークショップでは、『geoportals(ジオポータル)』の多くの事例に焦点が集中しました。これらは、ちょうどデータセット(メタデータ)に関する情報を提供することから、ユーザーが多様なデータプロバイダから提供されるいろいろなデータ源を照合して、見ることができるウェブマッピングサービスへと変化したことを意味しています
19. ローカル、地域、連邦レベルにおけるgeoportalsのこの激増は、継ぎ目のなくて単純なインターフェイスをユーザーに提供するために、慎重に管理されなければなりません。
20. これらのgeoportalsは、投資家グループ全体の協調を促し;非常に前向きな影響を与え

ています。

21. ワークショップで対処されない 1 つの問題は、別々で異なるライセンス契約をしているデータプロバイダの各々の問題を解決する『ビジネスの相互操作性』でした。そして、データセットへのアクセスの容易な投資家でも困難さを実感しております
22. 伝統的に、測量士は都市デザインの物理的な面に取り組んできましたが、都市計画の工程の中で社会的、かつ環境情報の分野への貢献が増加することから自らの潜在的な役割を認識するようになってきました

不法な開発

23. いくつかの論文は、スラムの膨大なスケールと拡大を確認しました/都市域における不法な開発です。カイロにおける調査は、問題が公式の数字のサイズの 5 倍であったと見積もられています
24. 各々の国の問題には異なる原因があつて、国の中でさえ、異なる地域の異なる解決法を必要としています。したがって、解決のツールキットを創る必要があるのです
25. ほとんどの場合、開発を制御する/建築規則は、あまりに複雑で、高価なものになり、時間がかかりすぎました。これは、多くの市民に対して法的なシステムが整備された土地以外に所有物を建てる誘因となりました。したがって、法とか規定は、時間とともにアップグレードすることができる、より単純な土地管理の課題解決を提供することが必要となります

改革

26. 各国における測量と建築の多くの規定は、あまりに堅くて、高価につくものであり、時代遅れです。これは規定を見ようとする、規定に従って生産する及びサービスするという点において、改革の抑制に至ります。これも、かなりでしばしばですが不必要な財政的なオーバーヘッドを管理に加えます。規則と規定のこの強制は、公共部門の役割と民間部門との関係の問題を持ち出しました。また、政府組織の法的な対応が、この現代においてどれくらい適切か、正当なものであるかという問題を提起しました - 特に対応が 60 年前設定されて、その後基本的に変わっていないからです

挑戦

27. 空間情報源を使う大多数のプロジェクトにおいて、様々な資源の空間情報を照合したり、バグをとったり、マージすることに 50%から 80%の労力を費やしていると思われます。これでは、空間情報を利用して問題を解決する、空間情報を解析したりするためには、極ごく一部の資源を残すだけとなってしまいます。システムと情報の相互操作性はオープンな規格の導入をもたらし、例えば INSPIRE イニシアティブを通して、プロがより能率的に空間情報を使うことができるように、この比率を逆にしなければなりません

28. 都市域において、より多くのセンサとより多くの市民中心のセンサの採用は、私たちの都市環境をより効果的な管理のために、情報のより豊かなセットを提供する際に有利となるものです。しかしながら、それは情報の膨大な量を管理する際に、更なる挑戦を提示するとともに、難しいプライバシー問題を提起しています
29. しかし、巨大都市への挑戦は、私達の都市の不法な開発による爆発やスラムへ効果的な解決法を見出し、応用してきました。これは、まさしく **Commission3** と **FIG** のためのプライオリティーとなるに違いありません